

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : アセチルアセトン

SDS コード : A2-05

供給者の会社名称 :

林 純薬工業株式会社

住所 : 大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号

担当部門 : 試薬化成品部 企画グループ

電話番号 : 06-6910-7305

E-mail : shiyaku\_kikaku@hpc-j.co.jp

URL : <http://www.hpc-j.co.jp/>

緊急連絡電話番号 : 06-6910-7305

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS 分類

物理的危険性	鈍性化爆発物	分類できない
	爆発物	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分 3
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	区分に該当しない
	金属腐食性化学品	分類できない
健康有害性	急性毒性 (経口)	区分 4
	急性毒性 (経皮)	区分 3
	急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	区分 3
	急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分 2
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (中枢神経系)

## 環境有害性

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (気道刺激性)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない
水生環境有害性 短期(急性)	区分 3
水生環境有害性 長期(慢性)	区分 3
オゾン層への有害性	分類できない

絵表示  
(GHS JP)

GHS02

GHS06

GHS08

## 注意喚起語 (GHS JP)

- : 危険
- : 引火性液体及び蒸気 (H226)  
飲み込むと有害 (H302)  
皮膚に接触した場合や吸入した場合は有毒 (H311+H331)  
眼刺激 (H320)  
呼吸器への刺激のおそれ (H335)  
遺伝性疾患のおそれの疑い (H341)  
臓器の障害 (中枢神経系) (H370)  
長期継続的影響によって水生生物に有害 (H412)

## 注意書き(GHS JP)

## 安全対策

- : 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)  
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)  
容器を接地しアースをとること。(P240)  
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。(P241)  
火花を発生させない工具を使用すること。(P242)  
静電気放電に対する措置を講ずること。(P243)  
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)  
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)  
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271)  
環境への放出を避けること。(P273)  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

## 応急措置

- : 飲み込んだ場合 : 気分が悪いときは医師に連絡すること。(P301+P312)  
皮膚(又は髪)に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。(P303+P361+P353)  
吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)  
眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)  
ばく露又はばく露の懸念がある場合 : 医師に連絡すること。(P308+P311)  
医師に連絡すること。(P311)  
気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)  
口をすすぐこと。(P330)

眼の刺激が続く場合 : 医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)  
汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P361+P364)

火災の場合 : 消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)

## 保管

- : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)  
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)  
施錠して保管すること。(P405)

## 廃棄

- : 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質  
別名 : 2,4-ペンタンジオン

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
アセチルアセトン	≥99%	C5H8O2	(2)-562	既存化学物質	123-54-6

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。

上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て質量%となります。

### 4. 応急措置

#### 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。  
多量の水と石鹼で優しく洗うこと。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないこと。  
口をすすぐこと。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。

### 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、耐アルコール泡消火剤、乾燥粉末消火剤、二酸化炭素、砂
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 火災危険性 : 極めて引火性の高い液体及び蒸気。
- 爆発の危険 : 屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発の危険がある。  
加熱により、容器が爆発するおそれがある。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。  
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。  
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。  
消火に使用した水が環境中に流出しないようにする。  
消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。
- 消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

### 6. 漏出時の措置

#### 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ちに入る前に、密閉された場所を換気する。  
関係者以外の入りを禁止する。  
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な保護具を着用し、風下で作業行わない。

#### 環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。

下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

#### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 :
- 漏出時は、吸収剤を使用してできるだけ素早く回収する。
  - できるだけ液体漏出物は密閉容器に回収する。
  - 回収跡は多量の水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策 :
- 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。
  - 漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。
- 安全取扱注意事項 :
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
  - 取扱い後はよく手を洗いうがいをすること。
  - 作業所の十分な換気を確保する。
  - 接触、吸入又は飲み込まないこと。
  - 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
  - 防爆型装置を使用する。

### 接触回避

### 保管

- 安全な保管条件 :
- 施錠して保管すること。
  - 直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。
- 安全な容器包装材料 :
- 遮光した気密容器。
- 技術的対策 :
- 適用法令を遵守する。
- 保管温度 :
- 冷暗所保管

## 8. ばく露防止及び保護措置

ばく露限界値	
アセチルアセトン	
許容濃度(ACGIH)	TWA 25 ppm, STEL - (Skin)

- 設備対策 :
- 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

### 保護具

- 皮膚及び身体の保護具 :
- 不浸透性前掛け、不浸透性作業衣、保護長靴
- 眼の保護具 :
- 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
- 手の保護具 :
- 不浸透性保護手袋
- 呼吸用保護具 :
- 有機ガス用防毒マスク

## 9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 :
- 液体
- 外観 :
- 液体
- 色 :
- 無色透明
- 臭い :
- 特異臭
- pH :
- データなし
- 融点 :
- 23.1 ° C
- 凝固点 :
- データなし
- 沸点 :
- 140.6 ° C
- 引火点 :
- 34 ° C (セタ密閉式)

自然発火点	: 340 ° C
分解温度	: データなし
可燃性	: データなし
蒸気圧	: 800.0 Pa (20°C)
相対密度	: データなし
密度	: 0.97 g/cm³ (20°C)
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: エタノールに易溶。ジエチルエーテルに易溶。 水: 16 g/100ml
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: 2.4 – 11.6 vol %
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: 情報なし
化学的安定性	: 通常の取扱い条件においては安定である。
危険有害反応可能性	: 酸化剤、塩基、還元剤と反応することがある。
避けるべき条件	: 日光、湿気。高温物、火花、裸火、静電気等の発火源。酸化剤、塩基、還元剤との接触。
混触危険物質	: 酸化剤、塩基、還元剤
危険有害な分解生成物	: データなし

## 11. 有害性情報

アセチルアセトン	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、0.78 mL/kg (764 mg/kg) (雄)、0.59 mL/kg (578 mg/kg) (雌) (PATTY (6th, 2012)、ACGIH (7th, 2011)、SIDS (2003))、1,000 mg/kg (PATTY (6th, 2012)) との報告に基づき、区分 4 とした。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50 値として、1,375 mg/kg (雄)、790 mg/kg (雌) との 2 件の報告 (ACGIH (7th, 2011)、SIDS (2003)) がある。区分 3 と区分 4 とにそれぞれ 1 件づつが該当するので、LD50 値の最小値が該当する区分 3 とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットの LC50 値 (4 時間) として、1,224 ppm との報告 (PATTY (6th, 2012)、ACGIH (7th, 2011)、SIDS (2003)) に基づき、区分 3 とした。なお、LC50 値が飽和蒸気圧濃度 (9,181 ppm) の 90%より低いため、ミストを含まないものとして ppm を単位とする基準値を適用した。
急性毒性 (吸入:粉末)	データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:ミスト)	データなし
皮膚腐食性／刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、未希釈の本物質 0.5 mL を 4 時間を閉塞適用した結果、軽度の紅斑又は軽度から中等度の浮腫がみられたが、7 日後には軽度の落屑がみられたのみで回復性を示したとの記載がある (SIDS (2003)、ACGIH (7th, 2011)、PATTY (6th, 2012))。以上の結果から区分外 (国連分類基準の区分 3) とした。
眼に対する重篤な損傷又は刺激性	ウサギを用いたドレイズ試験において、本物質の原液 0.1 mL を適用した結果、投与 1 時間に後も軽度の結膜発赤、軽度から中等度の結膜浮腫及び分泌物、軽度の虹彩炎が認められたが、24 時間後には全て回復した (SIDS (2003))。以上、軽度から中等度の刺激性がみられたことから区分 2B とした。
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。なお、ヒト 12 人に対するパッチテストで 2 人に陽性反応、7 人に疑わしい結果 (doubtful) がみられたとの報告があるが、著者らはこの試験による反応は刺激によるものであると記述し (SIDS (2003))、さらに、モルモットを用いた皮膚感作性試験において 1 匹にのみ弱い反応がみられ、曖昧な結果と評価されている (SIDS (2003)、PATTY (6th, 2012))。

アセチルアセトン	
生殖細胞変異原性	In vivo では、ラットの吸入ばく露による優性致死試験で軽微な影響がみられたが、対照群と被験物質投与群の間で値のばらつきが大きく、統計学的有意差が得られたと評価されておらず、陽性の判断はされていない (SIDS (2003))。マウス精原細胞の染色体異常試験で、陰性 (SIDS (2003))、マウス、ラットの吸入ばく露あるいは腹腔内投与による骨髓細胞を用いた小核試験では、マウスの腹腔内投与による試験のみで陽性、他は全て陰性 (SIDS (2003)、ACGIH (7th, 2011)、PATTY (6th, 2012))、マウスの強制経口投与による末梢血を用いた小核試験では、陽性結果が報告されている (NTP DB (Access on July 2015))。In vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験では概ね陰性であるが、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験では陽性である (SIDS (2003)、PATTY (6th, 2012)、ACGIH (7th, 2011)、NTP DB (Access on July 2015))。以上より、in vivo ではマウスの小核試験では経口投与、腹腔内投与で陽性結果が存在すること、in vitro で染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陽性であることから、本物質は染色体異常を誘発すると考えられ、区分 2とした。なお、旧分類の区分を見直した。
発がん性	ヒトの発がん性に関する情報はない。実験動物ではラット、又はマウスに本物質を 2 年間吸入ばく露した発がん性試験において、両種・両性ともに 400 ppmまでの用量で腫瘍発生率の有意な増加はみられていない (厚労省委託がん原性試験結果 (Access on September 2015))。しかし、非腫瘍性病変としては、ラット、マウスとともに鼻腔に炎症性変化、呼吸上皮の化生、嗅上皮の萎縮などがみられ、かつ最高投与群では体重増加抑制がラットの雌雄、及びマウスの雄に認められている (厚労省委託がん原性試験結果 (Access on September 2015)) ことから、用量設定は適切であったと判断される。すなわち、吸入経路では区分外相当と考えられるが、他経路での発がん性に関しては情報がない。国際機関による分類結果もなく、よって本項はデータ不足のため、分類できないとした。
生殖毒性	妊娠雌ラットの器官形成期 (妊娠 6–15 日) に本物質蒸気を吸入ばく露した催奇形性試験において、高用量 (400 ppm) 群では、母動物に体重増加抑制、胎児に体重の低値 (雌雄)、及び骨化遅延がみられ、中用量 (200 ppm) 群では雄のみ胎児体重の低値がみられたが、胎児死亡、奇形誘発など重大な発生毒性は母動物毒性が明白な 400 ppmまでの用量では認められていない (SIDS (2003)、ACGIH (7th, 2011))。以上の胎児にみられた変化は分類ガイドラインに基づき、軽微な変化として分類根拠には含めない。一方、吸入経路での優性致死試験では、本物質をばく露した雄ラットと未処理の雌ラットを交配させた結果、雌の受胎率の軽度低下がみられたとの報告がある (ACGIH (7th, 2011)) が、SIDS では変異原性試験の項で、“着床後胚損失の有意な増加”は統計解析の信頼性を欠いており、優性致死陽性の根拠はないとされている (SIDS (2003))。この他、生殖能への影響評価試験として分類に利用可能なデータはなく、データ不足のため分類できないとした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトの吸入ばく露で、わずかな局所刺激性のほか、眩暈、頭痛、吐き気、嘔吐、意識喪失などが知られている (SIDS (2003)、PATTY (6th, 2012))。実験動物では、ラットの経口投与で、485–760 mg/kg (区分 2 相当の用量範囲) で低迷、不安定歩行、衰弱、振戦、痙攣などがみられ、生存例では 1–2 日以内に回復した (ACGIH (7th, 2011)、SIDS (2003))。ラットの 2.62–3.83 mg/L (区分 1 相当の用量範囲) の吸入ばく露で、自発運動低下、正向反射低下、振戦などがみられた (SIDS (2003))。また、ラットの 5.01 mg/L (区分 1 相当の用量範囲) の吸入ばく露で中枢神経系抑制により死亡したとの報告がある (ACGIH (7th, 2011))。ウサギの 790–1,370 mg/kg の経皮ばく露で、麻酔、昏睡などの報告がある (SIDS (2003))。また、PATTY (6th, 2012)においても麻酔作用の所見が記載されている。以上より、実験動物での振戦や痙攣から中枢神経系影響、その他の影響として気道刺激性があり、区分 1 (中枢神経系)、区分 3 (気道刺激性) とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトに関する情報はない。実験動物では、投与回数が少ないが、ラットを用いた 2 週間強制経口投与毒性試験において、500 mg/kg/day の用量を 4 回投与した結果 (4 回投与までに、3 例死亡、2 例は状態悪化のため 4 回の投与で安楽死)、呼吸困難、抑うつ、振戦、運動失調、膀胱弛緩、肺のうっ血、角膜混濁、胸腺壊死、肝細胞腫脹・うっ血、腎症、腸間膜リンパ節のリンパ節炎、心臓の炎症がみられている (SIDS (2003)、PATTY (6th, 2012))。ウサギを用いた 2 週間経皮投与試験において、975 mg/kg/day を 4 回適用した結果 (4 回適用までに死亡がみられたため 4 回の適用で中止し、その後適用せず 12 日に安楽死)、皮膚刺激性 (棘細胞増生、皮下浮腫、皮膚炎、出血、うっ血、壞死)、死亡 (雄 1/6、雌 3/6)、活動性低下、虚脱、流涎、振戦。喘ぎ呼吸、痙攣、チアノーゼ、脳の出血・変性、胸腺・脾臓・リンパ節におけるのうっ血及び出血、リンパ球減少あるいは壞死がみられている (SIDS (2003)、PATTY (6th, 2012)、ACGIH (7th, 2011))。さらに、吸入経路においても区分 2 を超える範囲であるが、ラットを用いた 14 週間吸入ばく

アセチルアセトン	
	露試験においても同様の所見がみられ、運動失調、死亡例で小脳核、前庭核、線条体の急性変性、胸腺リンパ球の急性変性、生存例で脳のグリオーシス、脳軟化がみられている(SIDS (2003)、PATTY (6th, 2012)、ACGIH (7th, 2011))。以上のように、中枢神経系が標的臓器と考えられるが。経口投与及び経皮投与試験では投与回数が4日間と少ないことから、ガイダンスに従い分類には採用しなかった。また、吸入経路では区分2の範囲に影響はみられなかった。したがって、分類できないとした。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。なお、HSDB (Access on June 2015) に収載された数值データより、動粘性率計算値は 0.62 mm <sup>2</sup> /sec (20°C) (粘性率: 0.6 mPa·s; 密度(比重): 0.9721) と算出される。

## 12. 環境影響情報

アセチルアセトン	
水生環境有害性 短期(急性)	甲殻類(オオミジンコ)48 時間 EC50 = 34.4 mg/L (SIDS, 2003)であることから、区分3とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(良分解性: 28 日での BOD 分解度 = 83%、GC 分解度 = 100%、TOC 分解度 = 95%(通産省公報、1991))、甲殻類(オオミジンコ)の 14 日間 NOEC (reproduciton rate) = 0.25 mg/L (SIDS, 2003)であることから、区分3となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、魚類(ブルーギル)の 96 時間 LC50 = 60.1 mg/L (SIDS, 2003)であるが、急速分解性があり、生物蓄積性が低いと推定される(log Kow= 0.4(PHYSPROP Database、2009)))ことから、区分外となる。以上の結果を比較し、区分3とした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。  
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

#### 海上輸送(IMDG)

国連番号 (IMDG)	: 2310
正式品名 (IMDG)	: PENTANE-2,4-DIONE
容器等級(IMDG)	: III
輸送危険物分類 (IMDG)	: 3 (6.1)
危険物ラベル (IMDG)	: 3、6.1
クラス(IMDG)	: 3
副次危険性 (IMDG)	: 6.1
包装要件(IMDG)	: P001
IBC 包装要件(IMDG)	: IBC03
ポートブルタンク包装規定 (IMDG)	: T4
輸送特別規定-タンク(IMDG)	: TP1
積載区分 (IMDG)	: A
引火点 (IMDG)	: 34° C c.c.
特性および観察結果 (IMDG)	: Colourless liquid. Flashpoint: 34° C c.c. Explosive limits: 1.7% to ... Miscible with water. Toxic if swallowed, by skin contact or by inhalation.
緊急時応急措置指針番号	: 131

**航空輸送(IATA)**

国連番号 (IATA) : 2310

正式品名 (IATA) : Pentane-2,4-dione

容器等級 (IATA) : III

輸送危険物分類 (IATA) : 3 (6.1)

危険物ラベル (IATA) : 3、6.1

クラス (IATA) : 3

副次危険性 (IATA) : 6.1

PCA 微量危険物(IATA) : E1

特別管制区(PCA)少量危険物(IATA) : Y343

特別管制区(PCA)数量限定物の最大積載量(IATA) : 2L

PCA 包装要件(IATA) : 355

特別管制区(PCA)最大積載量(IATA) : 60L

CAO 包装要件(IATA) : 366

貨物機専用(CAO)最大積載量 (IATA) : 220L

ERG コード (IATA) : 3P

**海洋汚染物質** : 非該当**国内規制**

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報 : 航空法の規定に従う。

緊急時応急措置指針番号 : 131

特別な輸送上の注意 : 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

**15. 適用法令****国内法令**

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)  
危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)  
名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)  
アセチルアセトン(政令番号: 11 の 4) (99%以上)

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)

外国為替及び外国貿易法 : 輸出貿易管理令別表第1の16の項

船舶安全法 : 引火性液体類(危規則第2、3条危険物告示別表第1)

航空法 : 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)

港則法 : その他の危険物・引火性液体類(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)

道路法 : 車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : 特別管理産業廃棄物(法第2条第5項、施行令第2条の4)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法) : 非該当

**16. その他情報****参考文献**

: 17120 の化学商品(化学工業日報社)。

国際化学物質安全性カード(ICSC)。

独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)。

ERG2016 版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)。

**その他の情報**

: この SDS は林 純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではあ

りません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。